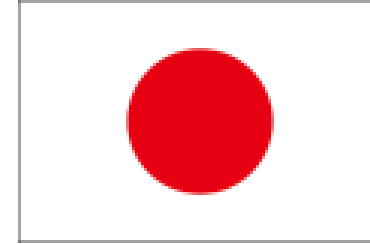


ジャマイカ情勢と日ジャマイカ 関係の展望



令和3年1月14日

駐ジャマイカ日本国特命全権大使

藤原 聖也

1. はじめに

ジャマイカ：「規模は小さいが影響力のある国」

- 日本にとっての重要性
 - ・ 基本的価値の共有（自由・民主主義、市場経済）
 - ・ カリコム14カ国のリーダー（国際場裡での協力）
 - ・ 太平洋と大西洋を結ぶ地政学的要衝
- 国際海底機構（ISA）本部、ICJ、ITLOS判事等輩出



J・Jパートナーシップ



本使のP.J.パターソン元首相表敬



国際司法裁判所 (ICJ)
パトリック・ロビンソン判事



国際海洋法裁判所 (ITLOS)
キャシー・アン・ブラウン判事

2. 政治情勢

- 1962年の独立前からの民主主義。
- 2020年9月総選挙：与党JLPが圧勝。
- ホルネス首相再任（2025年まで）。
⇒優秀な若手を重要閣僚に登用

	改選前		改選後
JLP	34	⇒	49議席
PNP	29	⇒	14議席



カミナ・ジョンソン・スミス
外務・貿易大臣



ナイジェル・クラーク
財務・公共サービス大臣



パーネル・チャールズ・ジュニア住宅・
都市再開発・環境・気候変動大臣



フロイド・グリーン
農業・漁業大臣

- ↑↓
- 野党PNPの弱体化：チェックアンドバランスに対する懸念の声
 - 2大政党：伝統的にJLPは自由主義的、PNPは社会民主主義。
→近年はイデオロギー色薄れ、政策面での違い不明確に。



創設年：1943年

創設者：アレクサンダー・ブスタマンテ
(ノーマン・マンレーの従兄弟)



創設年：1938年

初代党首：ノーマン・マンレー



本使のホルネス首相表敬

3. 治安情勢

●殺人件数は高止まり

○背景：麻薬・銃器の不法取引に絡むギャングの抗争(80%)、D V (20%)、外国人がターゲットではない

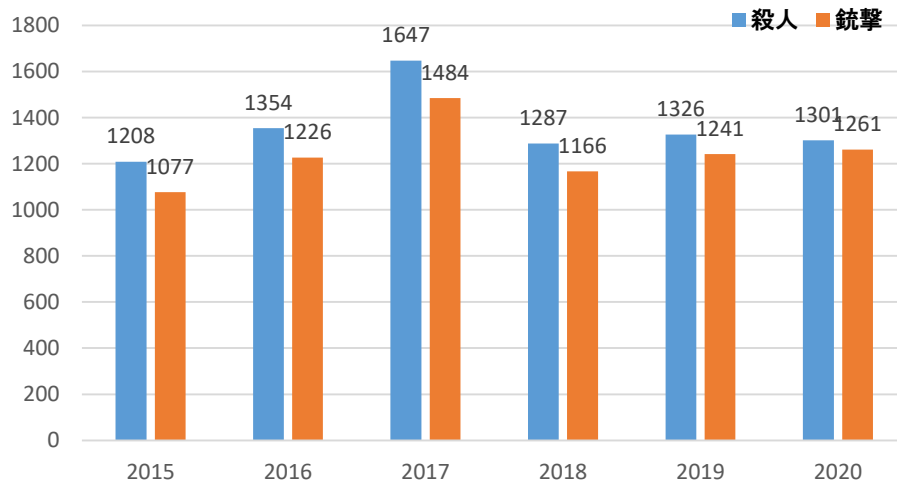
●政府の対策

○3段階の対応「一掃(Clean)」 「保持(Hold)」 「構築(Build)」～犯罪対策特別地区(ZOSO)の基本方針

○今後の課題：8月の「犯罪にかかるナショナル・コンセンサス」の実効性、治安当局の能力不足、非常事態宣言(SOE)をどうするか

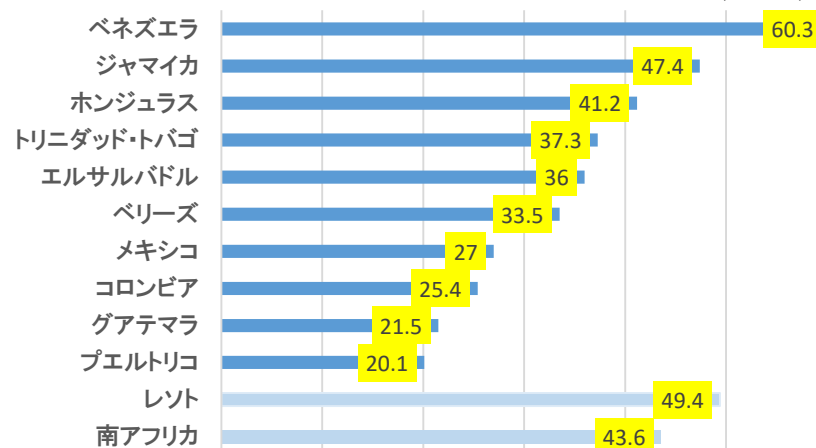
○長い時間をかけて現在の状況が生まれており、解決には時間がかかる

殺人・銃撃事件の推移



出典：ジャマイカ警察
*2020年は12月26日までの件数

中南米諸国10万人あたりの殺人発生件数 (2019)



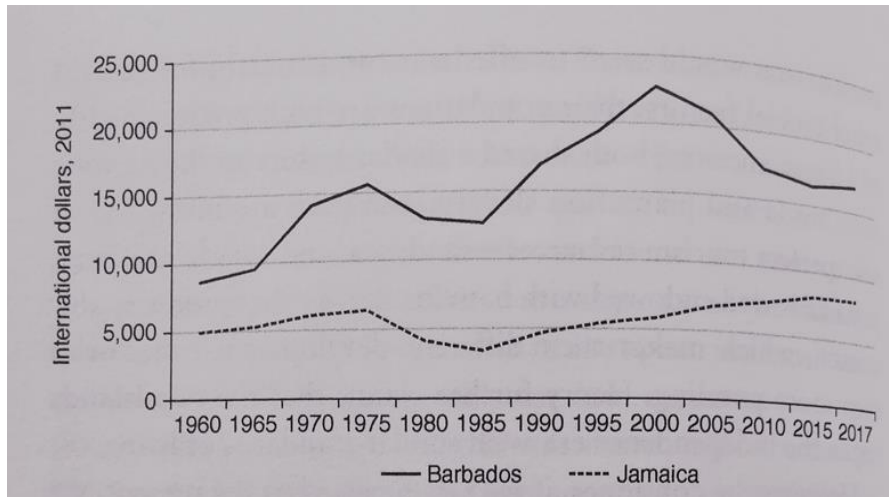
出典：insightcrime.org
*アフリカ2か国はThe Small Arms Survey Data Baseによる

4. 経済状況

- 独立後低成長が続く（独立時はシンガポールと同規模、バルバドスに大きく後れ）、マクロ経済の悪化、治安問題も影響。

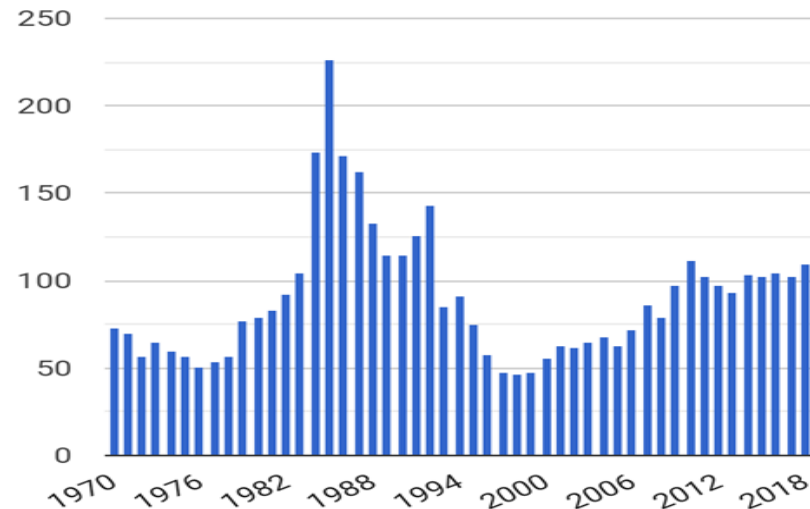
- 観光業、鉱業、農業、海外からの送金に依存する脆弱性
- 近年債務削減によりマクロ経済は好転（債務残高の推移）
- コロナの影響
- 「ビジョン2030」国家開発計画

バルバドス及びジャマイカの実質GDP推移

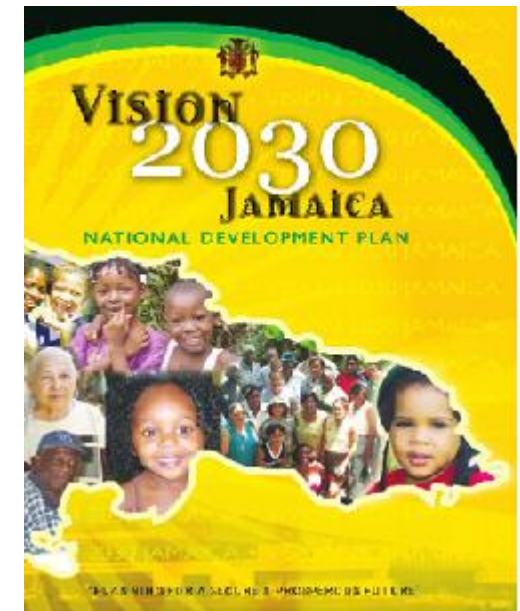


出展: Patterson, Orlando. 2019. "The Confounding island." Kingston: Ian Randle Publishers.

ジャマイカのGDPに占める対外債務の割合



出展: The Global Economy.com



5. 二国間関係(概観)

●伝統的に良好な二国間関係、「J・Jパートナーシップ」に発展。

○2014年7月：日・カリコム首脳会合
(於：T・T)

⇒「対カリコム政策3本柱」

- ・脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力
- ・交流と友好の絆の拡大と深化
- ・国際場裡における協力

○2015年10月：安倍総理のジャマイカ訪問

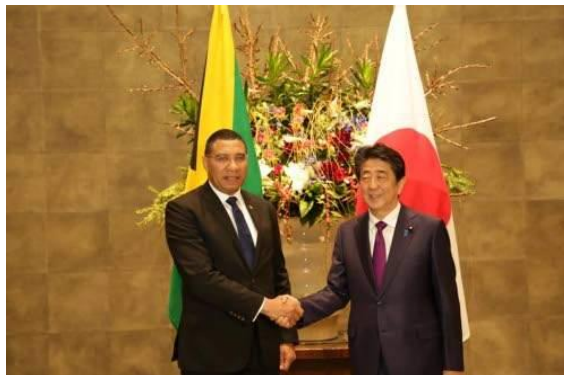
⇒「J・Jパートナーシップ」の強化

○2019年12月：ホルネス首相訪日

⇒租税協定（昨年9月発効）、警備艇供与E/N署名



日・カリコム首脳会合



ホルネス首相の訪日



安倍総理のジャマイカ訪問(シンプソン・ミラー首相との会談)

(参考)

1964年3月外交関係開設

1987年JOCV派遣

1992年在京ジャマイカ大使館開設

1995年1月在ジャマイカ日本大使館開設

2000年JETプログラム開始

5. 二国間関係(経済)

- 経済協力：防災、環境、格差是正が重点分野、技術協力に加え、借款、無償も可能。
- 官民連携による新たな分野の開拓（日本の技術・製品に対する高い評価、ロジスティクス・ハブ構想、再生可能エネルギー、エネルギー効率化等）
- 官民合同経済ミッション（ジャマイカの利点：英語、教育水準、賃金水準、カリブ海で最大、米国に近い。）

キングストン首都圏上水道整備事業 THE KINGSTON METROPOLITAN AREA WATER SUPPLY PROJECT

終了案件



事業

有償資金協力

課題

水資源・防災

借款契約（L/A）調印

1996年7月

借款契約額

66.44億円

出展：JICAホームページ

ロジスティクス・ハブ構想



出展：



日カリコム官民合同経済 ミッション(H23年11月)



ジャマイカの発電所視察
出展：外務省ホームページ

5. 二国間関係(文化・人物交流)

●JET、JOCVが推進力（鳥取県・ウエストモアランド県）

○JET、国費留学生、JICA研修員アルムナイとの連携

●大学間交流の強化。

○UWI、UTechとの連携（日本語、日本研究、
環境分野、アニメ等日本文化）

●音楽・スポーツが強み

○レゲエ人気

○オリンピックで78メダル獲得（金22、銀35、銅21）

人口100万人当たり2.09個

●知日派をいかに増やすか。

→閣僚、実訪者、ジャーナリスト等の招へい

（出展：Patterson, Orlando. 2019. “Why are Jamaicans the fastest runners in the world.”

The Confounding island. Kingston: Ian Randle publishers.）



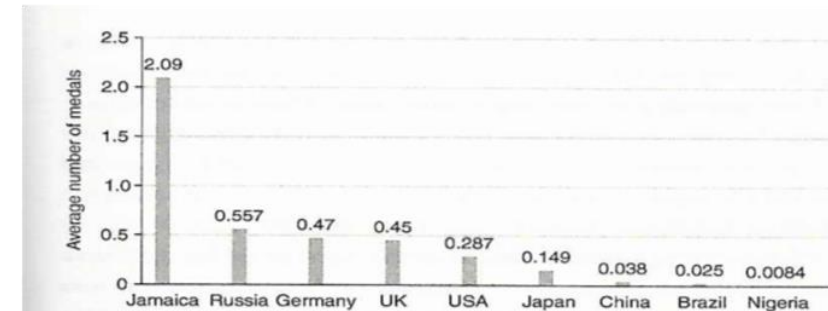
JET34期歓迎レセプション（マル
シア・ギルバート・ロバーツ外
務・貿易次官とともに）
（2020年12月17日）



Japan Day（日本人レゲエアー
ティストとともに）
（2020年2月2日）



鳥取県ハードル供与式
（2020年12月14日）



5. 二国間関係(文化・人物交流)その2

●ジャマイカ人の来日数は増加傾向

○近年英語指導助手(ALT)が増加

●日本人渡航者・在留数は減少傾向

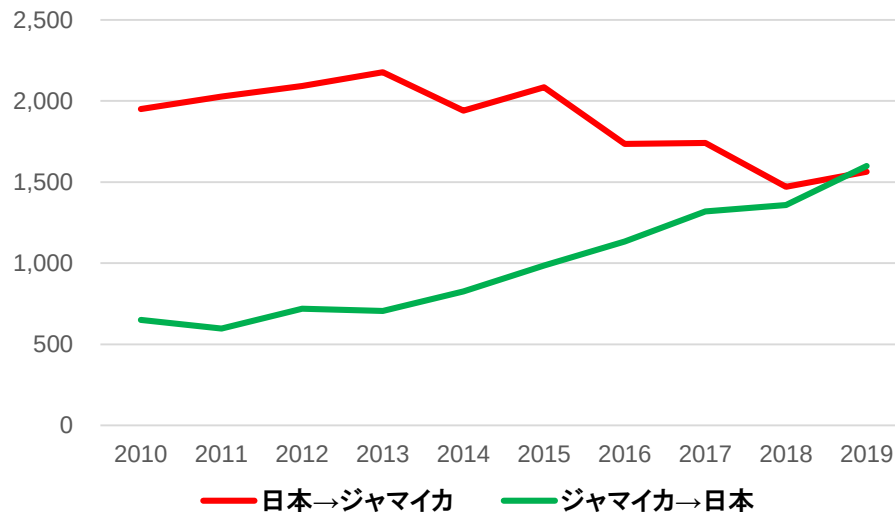
○2020年10月現在在留邦人は187人、主要居住地はキングストン首都圏

135人、セント・ジェームス県16人、セント・キャサリン県13名(いずれも概数)

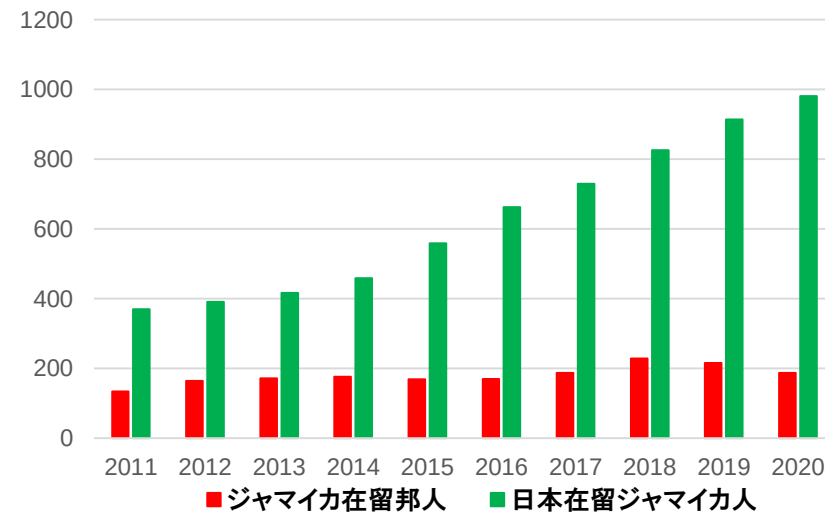
○215の国・地域中85位、10万人あたりの在留邦人数は7人(*中国では8人)

○過去20年の在留邦人数は平均177人

両国の渡航者数



両国の在留人数



6. おわりに

● 「J・Jパートナーシップ」の深化

○質の高いインフラ、グリーンエコノミー、デジタル化

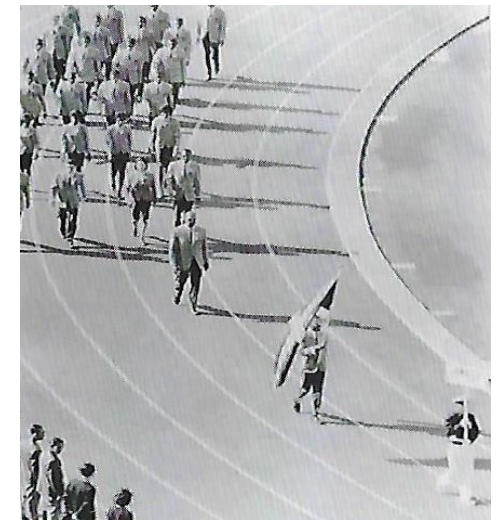
○草の根レベルの交流（音楽、スポーツ、観光、自治体）



ウエスタン・ホスピタリティ協会研修施設開所式



国際会議では隣席になる日本とジャマイカ（於：国連）



1964年東京オリンピック開会式でのジャマイカチーム



ご静聴ありがとうございました